



万博から帰って2日目、仕事をしていたら午前の11時半に急に猛烈な眠気が襲ってきて、どうしようもなくリクライニングの椅子に移って寝てしまった。昼過ぎて目を覚ましたがまだまだ体全体の悪寒に起きあがるのに苦労した。しかし、その日の夜ふっと気付いたのだが、咳をしても折れた肋骨があまり響かなくなっていた。

翌日、また、全く同じ時間に全く同じように眠ってしまい、気がついたら明らかに肋骨の痛みがやわらいでいた。

翌日から眠気は来なかった。あれはなんだっただろうと思うと、なんだか傷ついたかけものが穴にじっとしている様子が脳裏をよぎる。あのとき体のあらゆる力が骨の割れ間に集中して一気に補修を開始したのではある

まいか、そのリズムがあつた時間に出たのではあるまいか、けっこう体の仕組みは動物そのものなんだと妙に安心した。その数日後は選挙の立会人で6時半から夜まで投票所で過ごしたが、咳き込んで苦しむことがさほどなく助かった。まあ、その代わりに右の折れた肋骨をかばっていた右肩が50肩になってけっこう苦しい状態が続いてはいるが、理由がわかっていたら痛みはそれほど苦にはならないものだ。

問題はこの夏、山へ行けるかどうかだろう。夜も痛みで結構まとまってねてもいられないし、なんだかまだザックを背負って歩くのに多少の不安がある。もう少し様子を見つけないとならないだろう。それとなんだか頭の中がものすごく散発的で計画を立てて何かをやっていくという気力にかなり欠けていて、脳で、「あせい。こうせい。」と言ううさいのがないとなんか仕事の運びも心許ない感じだ。それでも、まず今抱えている河川公園計画を進めなくてはならないし、頼まれている本の印刷も調べ始めなくてはならない、8月に愛知県の三の丸庁舎ロビーで展示する用意、まなざしの電子化の簡易化、次期バン格拉への対応など本当は気が抜けないのだ。ぼーっとしてはられないのだが、困ったものだ。

と言うことで今月は何しろばけた散文頭に活を入れて元気よく動き出すことを最重要課題としよう。格好は気にせず半ズボンにサンダルでもいいじゃあないか。

そうそう、立会人の時、役所の人に「クールビズを推進していきますので、上着、ネクタイなしでお願いします。」と言われたが、咳き込んだら地獄が待っている身としたら扇風機にあたったままの体はきつかった。胸にまいていった固定用のバンドが暖かみを保ってくれてかろうじてのりきったが、もっと個人差を大切にすべきだと思う。それともう一つ、血圧は下がってきたが、酒を飲むと関節に重い痛みが来るようになった。ついでに、本を読むのにメガネを外さなければならなくなった。も一つ言えば、高尾山くらいで3日も足が痛んだ。なんだかぼろぼろになってきたが、明後日は来年のバングラディッシュ便所作り隊の作戦会議だ。なんとって私が最年少なのだ。60前後のおつつあんたちが夢と希望に胸をふくらませて、今まで覚えてきた手練手管、裏街道の生き延び方、はったりと現実のせめぎ合いの駆け引きなどを総動員して、また便所を作りに行くのだそうだ。困ったことに私も一味に入っているらしいのだ。アフリカやペイルート組もなんだか親しげだし、モスクワやシンガポールもほほえんでいる。オレの人生はどーなっていくのだろう。

8月の「まなざし」の編集は20日です。手紙の方はよろしくお願ひ致します。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com